

大牟田市健康福祉総合計画（案）の主な修正箇所

修正箇所	修正前	修正後	備考
8 ページ 1-4 (1) 9 行目	(1) 大牟田市健康福祉推進会議 (略)	(1) 大牟田市健康福祉推進会議 (略) <u>本計画の策定にあたり、令和元年度に 1 回、令和 2 年度に 4 回の会議を開催し、審議を行いました。</u>	会議経過を加筆
8 ページ 1-4 (2) 4 行目	(2) 大牟田市健康福祉推進庁内委員会 (略)	(2) 大牟田市健康福祉推進庁内委員会 (略) <u>本計画の策定に向け、令和元年度に 1 回、令和 2 年度に 4 回の会議を開催し、協議を行いました。</u>	会議経過を加筆
18 ページ ●要介護 等認定者 数の推移	本市の認定者数は、65 歳以上の高齢者が減少に転じたことや、75 歳以上の後期高齢者人口が微増であったことなどから、横ばいで推移しています。	本市の認定者数は、65 歳以上の高齢者が減少に転じたことなどにより、横ばいで推移しています。	適切な表現へ修正
59 ページ 5-2 (2)	・ 地域移行支援・定着支援事業を行う一般相談支援事業所が、 <u>人員不足により事業に取り組めない現状があるため、人員確保と専門的人材の育成が課題です。</u>	・ 地域移行支援・定着支援事業を行う一般相談支援事業所が、 <u>事業に取り組めるよう人員確保と専門的人材の育成が課題です。</u>	適切な表現へ修正
59 ページ 5-2 (3)	・ <u>退院可能な精神障害者の退院と社会復帰の促進のためには、医療機関と相談支援事</u>	・ <u>精神障害者の退院と社会復帰の促進のためには、医療機関と相談支援事業所はもと</u>	適切な表現へ修正

	業所はもとより、地域とのさらなる連携と情報共有及び地域移行後の見守り体制の確保が必要と考えます。	より、地域とのさらなる連携と情報共有及び地域移行後の見守り体制の確保が必要と考えます。	
72 ページ (2) 3 段落目	同時に、サービスの安定した提供を支える福祉・介護人材について、働く側の視点に立ち、働きやすい職場づくり、働きがいをサポートする研修機会の充実等を図ることも欠かすことができません。	同時に、サービスの安定した提供を支える福祉・介護人材の育成・確保が求められています。働く側の視点に立ち、働きやすい職場づくり、働きがいをサポートする研修機会の充実等を図ることも欠かすことができません。	市民意見により、加筆
75 ページ			健康寿命の出典を加筆
84 ページ 以降 ●主な事業 所管課	福祉課	福祉課総務企画担当、 福祉課健康対策担当、 福祉課障害福祉担当、 福祉課介護保険担当、 福祉課総合相談担当	福祉課の各担当名を加筆
102 ページ ●これから考えたい取り組み		<p>・新たな感染症への対応</p> <p><u>新型コロナウイルスをはじめとした新たな感染症に対しても適切な対応ができるよう、今後も正しい情報の提供に努めます。また、新しい生活様式等の対応策を広く周知・啓発</u></p>	市民意見により、加筆

		<u>する方法の検討が必要と考えています。</u>	
107 ページ ●重点取り組み 成果指標	<u>「人生会議※」の認知度</u> <u>(アンケートで「『人生会議』の意味や内容</u> <u>まで知っている」と回答した人の割合)</u> <u>目標値…基準値の 10 ポイントアップ</u>	<u>介護が必要になった場合も自宅で生活したい</u> <u>と思う人の割合</u> <u>(アンケートで、将来、介護が必要になった</u> <u>場合、もしくは今後も介護を必要とする場合</u> <u>「住み慣れた自宅で生活したい」と回答した</u> <u>高齢者の割合：令和 2 年 58.1%)</u> <u>目標値…68%</u>	
113 ページ ●主な事業 福祉・介護 人材の確保	国や県の支援制度を活用するとともに、大牟田市介護サービス事業者協議会や大牟田人材確保推進事業実行委員会等と連携しながら、福祉・介護の人材の安定確保のための事業に取り組み、サービスの質の確保を図ります。	国や県の支援制度を活用するとともに、大牟田市介護サービス事業者協議会や大牟田人材確保推進事業実行委員会等と連携しながら、福祉・介護の会社紹介や仕事の魅力発信等、人材の安定確保のための事業に取り組み、サービスの質の確保を図ります。	具体的な取り組み例を加筆
114 ページ ●これから考えたい取り組み		<u>・働きやすい職場づくりへの支援</u> <u>職員が、やりがいをもって働くことのできるよう働きやすい職場・働きがいのある職場</u> <u>づくりの支援を行い、福祉・介護の仕事の魅力の向上を図ることについて検討が必要と考えています。</u> <u>また、福祉・介護の仕事にやりがいを感じ</u>	相談対応に従事する職員への支援を加筆

		<u>しながらも、相談対応等を通じて強いストレスを感じている職員もいることから、職場におけるメンタルヘルス対策の充実について検討が必要と考えています。</u>	
119 ページ ●これから考えたい取り組み	<p>・<u>仕事と介護の両立のための支援</u> 働き盛りの世代が突発的に介護を行うことになった場合等で、仕事を続けることを望む人が、仕事と介護の両立ができるような支援について検討が必要と考えています。</p>	<p>・<u>仕事と家族等のケアの両立のための支援</u> 働き盛りの世代が突発的に介護を行うことになった場合等で、仕事を続けることを望む人が、<u>仕事と介護や子育てなどの両立</u>ができるような支援について検討が必要と考えています。</p>	介護に限定していた表現を広げるため修正
120 ページ ●考え方	誰もが社会参加し、その能力を伸ばし、最大限に発揮しながら安心して生活できるためには、社会のあらゆる場面でのアクセシビリティ*の向上が不可欠です。	誰もが社会参加し、その能力を伸ばし、最大限に発揮しながら安心して生活できる環境を整えるためには、社会のあらゆる場面でのアクセシビリティ*の向上が不可欠です。	文言の追加
129 ページ ●主な事業 生活支援体制整備事業	<p><u>経済的困窮、社会的孤立、ひきこもり、虐待、権利擁護等の福祉課題・生活課題を早期に発見し、地域を基盤としたネットワークで解決を目指す体制の整備を図ります。</u></p> <p>また、地域福祉活動を推進する校区社会福祉協議会の活動を支援します。 【実施主体：市社会福祉協議会】</p>	<p><u>地域包括ケアシステム構築に必要な生活支援（地域での支え合い）を充実させるために、新たな社会資源の開発や既存の社会資源と住民ニーズとのマッチングを行います。</u></p> <p>また、地域福祉活動を推進する校区社会福祉協議会の活動を支援します。</p>	適切な表現へ修正
163 ページ	要介護等認定者数は、令和元年に 65 歳以上の高齢者人口が減少に転じたことや 75 歳	要介護等認定者数は、令和元年に 65 歳以上の高齢者人口が減少に転じたことなどによ	適切な表現へ修正

③要介護等認定者の推移	<u>以上の後期高齢者人口が微増傾向であったこともあり、ここ数年は横ばいに推移しています。</u>	り、ここ数年は横ばいで推移しています。	
204～223 ページ 小学校区別の状況			表のレイアウト修正
274 ページ 用語解説		<u>市民後見人</u>	用語解説の追加
276 ページ 用語解説 ノーマライゼーション	<u>障害のある人を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルな社会であるとの考え方です。</u>	<u>障害のある、なしにかかわらず、地域においてごく普通の生活をしていけるような社会をつくっていくことです。（等しく生きる社会の実現）。</u> <u>これは、障害者が日常生活又は社会生活において受ける制限は、心身の障害のみに起因するものではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものとする、いわゆる「社会モデル」の考え方を基本として、社会的障壁を取り除いていく取組みを進めることが重要であることを提唱しているものです。</u>	適切な表現へ修正

277 ページ 用語解説		<u>法人後見</u>	用語解説の追加
-----------------	--	-------------	---------